



平成29年産米の買入状況と品質について

1. うるち米買入状況（11月24日現在）

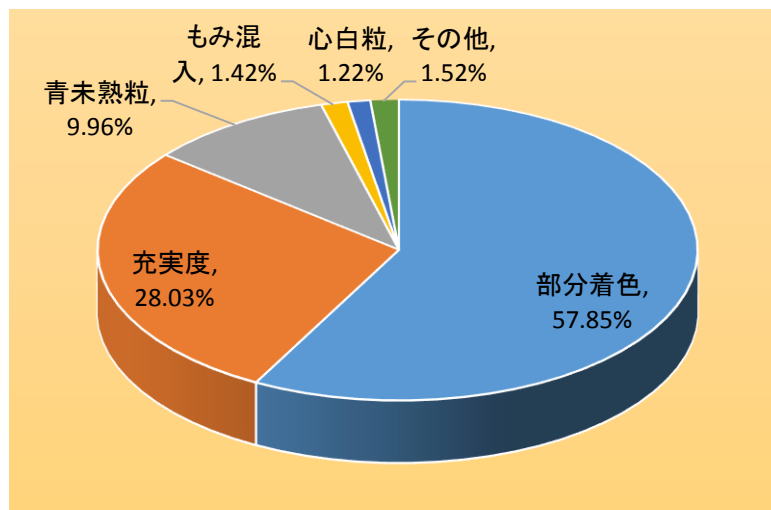
地区	契約数量	買入数量	契約対比	1等米比率
大和	49,422 袋	40,466 袋	81.87%	86.91%
落合	54,744 袋	48,483 袋	88.56%	96.51%
鶴巣	52,467 袋	47,138 袋	89.84%	94.69%
大郷	117,211 袋	95,066 袋	81.10%	86.11%
富谷	36,440 袋	33,889 袋	92.99%	93.26%
大衡	74,964 袋	66,667 袋	88.93%	90.01%
合計	385,248 袋	331,709 袋	86.10%	90.46%

JAでは引き続き全量集荷に取り組んで参りますので
1俵・1袋でも多くの出荷をお願いいたします。



2. 等級格下げ要因

理由	割合
部分着色	57.85%
充実度	28.03%
青未熟粒	9.96%
もみ混入	1.42%
心白粒	1.22%
その他	1.52%
合計	100.00%



～まとめ～

8月に入ってから記録的な低温・寡照により、登熟がやや不良となりました。斑点米カメムシ類については注意報が出される等、発生量が多い傾向にありました。また、防除時期に断続的な降雨があったため、適期防除が非常に難しい状況でもありました。

一方、等級格下げ要因としては、斑点米カメムシ類による「部分着色」が多くの割合を占めました。また、登熟に影響があったため、「充実度」不足や「青未熟粒」の混入による落等が多かったことも今年の特徴として挙げられます。「もみ混入」については例年より少なく、適切な調製作業が行なわれました。結果的に1等米比率は90%台が確保され、県内でも上位の比率となりました。

★みらいアグリ12月号・12ページに掲載